



東北大学



平成 23 年 7 月 6 日

特発性正常圧水頭症診療ガイドラインの改訂版の出版について

東北大学大学院医学系研究科

高齢化社会の到来に伴い、認知症の症状をもつ人の数は増え続けていますが、多くの場合、ほとんど改善が見込まれないことで、患者さんや家族の方々の多くが苦しんでいます。特発性正常圧水頭症は、高齢者に認知症、歩行障害、尿失禁をもたらす疾患ですが、シャント術と呼ばれる手術で改善することが知られています。このたび東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野の森悦朗教授を委員長として、全国の大学、病院の医師、研究者 20 名が委員として作成にあたった特発性正常圧水頭症診療ガイドラインの改訂版が完成し、出版される運びとなりました。医師向けのこの診療ガイドラインの出版は、診断や治療方針の決定に大きく貢献するものと期待されます。

【背景】

特発性正常圧水頭症は、高齢者に認知症、歩行障害、尿失禁をもたらす疾患で、シャント術と呼ばれる手術で改善することから、注目を集めている疾患です。2004 年に診療ガイドラインが出版されて以来、認知度が上がり、最近は大衆メディアにもよく取り上げられるようになり、また手術件数は全国的に急増しました。研究論文数も初版のときに比べて倍増し、わが国からはたいへん重要な研究結果が報告され、最新の知見を取り込んだ診療ガイドラインの改訂が急がれていました。

【ガイドライン改訂の概要】

ガイドラインの改訂は、日本正常圧水頭症学会と厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「正常圧水頭症の疫学・病態と治療に関する研究」班の共同事業として、東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野教授森悦朗を委員長として、全国の大学、病院の医師、研究者 20 名が委員として作成にあたりました。震災のために当初の計画より若干の遅れは生じたものの、作業

開始から約1年で完成させることができました。

特に重大な改訂は、従来の診療ガイドラインでは診断にタッptestという腰から針を挿入して脳脊髄液を試験的に排除する方法が必須の検査でしたが、今回の改訂版では、MRIで特徴的な所見があれば診断が可能になったことです。このことでより簡単に精度の高い診断ができるようになり、これまで見逃されていた患者も見つけやすくなると考えられます。

今後日本正常圧水頭症学会と厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「正常圧水頭症の疫学・病態と治療に関する研究」班では、更なる知識の普及をめざして一般向けのガイドラインを作成すること、世界に向けて英語版のガイドラインの出版を計画しています。

出版元： メディカルレビュー社

出版予定日： 2011年7月10日

本件に関する問い合わせ先

東北大学大学院医学系研究科

高次機能障害学分野 教授

森 悦朗 （もり えつろう）

電話： 022-717-7358

メール： morie@med.tohoku.ac.jp

報道担当

東北大学大学院医学系研究科・医学部

広報室

長神 風二 （ながみ ふうじ）

電話： 022-717-7908

メール： f-nagami@med.tohoku.ac.jp